



# 十一月 (小) 霜月

十一月七日立冬の節より  
月命辛亥八白土星の月  
暗剣殺東北方

旧 九月小  
十月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦六輝	中段	共宿	下段	目出入	月出入	満潮	干潮
1日	水	みづのえ	五黄	十三夜、灯台記念日、教育文化週間、新米穀年度、計量記念日、旧九月小	十三	先負	やぶる	箕	大みょう	6.03	16.46	2.19
2日	木	みづのとみ	四緑	唐津くんち、天一天上	十四	佛滅	あやぶ	斗	くま	6.04	16.45	3.23
3日	金	きのえ	三碧	文化の日、明治神宮例祭、一粒万倍日、東京足立血沼不動万灯祭、三隣亡	十五	大安	なる	牛	くま	6.05	16.44	4.28
4日	土	きのとひ	二黒	望一四時二三分、消費者センター開設記念日	十六	赤口	おさん	女	大みょう	6.06	16.43	5.36
5日	日	ひのえ	一白	世界津波の日、不成就日	十七	先勝	ひらく	虚	くま	6.06	16.42	6.45
6日	月	ひのと	九紫	世界津波の日、一粒万倍日	十八	友引	とづ	危	くま	6.07	16.41	7.55
7日	火	つちのえ	八白	立冬一四時三十分、一粒万倍日	十九	先負	とづ	室	くま	6.08	16.41	8.08
8日	水	つちのと	七赤	世界都市計画の日、ふいご祭、京都伏見稲荷火焚祭、三隣亡	廿	佛滅	たつ	壁	くま	6.09	16.40	9.03
9日	木	かえ	六白	一九番の日、太陽暦採用記念日	廿一	大安	のぞく	奎	くま	6.10	16.39	10.06
10日	金	かのと	五黄		廿二	赤口	みつ	婁	五む	6.11	16.38	11.04
11日	土	みづのえ	四緑	下弦五時三十分、世界平和記念日	廿三	先勝	たいら	胃	大みょう	6.12	16.37	12.06
12日	日	みづのと	三碧	京都松尾大社上卯大祭、京都空也堂開山忌、京都嵐山紅葉祭	廿四	友引	さだん	昂	天火	6.13	16.37	13.19
13日	月	きのえ	二黒	不成就日	廿五	先負	とる	畢	大みょう	6.14	16.36	14.28
14日	火	きのと	一白	秋の全国火災予防運動(9日~15日)	廿六	佛滅	やぶる	觜	大みょう	6.15	16.35	15.51

全国的な秋晴れはこの月に多いが、別称「霜月」といふように、北のほうから寒冷前線が下がってきて、局地的には天候が悪化したこと、月半ばには霜が降りることがある。

立冬がすぎると、駆け足で冬がやってくる。健康上や家事の上で冬を迎える準備に怠りがないようにチェックしよう。

【冠】十五日は「七五三」の宮詣りの日である。両親に連れられて、氏神様や名のある神社に参拝する日であるが、この「七五三」の慣行は歴史的にはそんなに古くはない。しかし女の子七歳(帯結び)、男子五歳の祝(袴着)は、それぞれ独立して格式高い家庭で行われていた。また、男児、女児の三歳は乳幼児期を無事に過ぎ、少年期へ成長するわが子に対する親心の現れであろう。本来、わが子の息災と加福を祈る素朴な祈願が、近時はやたら

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦六輝	中段	共宿	下段	目出入	月出入	満潮	干潮
15日	水	ひのえ	九紫	七五三、本州・四国・九州一般鳥獣狩猟解禁	廿七	大安	あやぶ	参	神よし	6.16	16.34	21.26
16日	木	ひのと	八白	将棋の日、奈良談山神社例祭、市川中山法華経寺御会式	廿八	赤口	なる	井	神よし	6.17	16.34	22.00
17日	金	つちのえ	七赤		廿九	先勝	おさん	鬼	●	6.18	16.33	22.32
18日	土	つちのと	六白	朔二〇時四二分、二の酉、一粒万倍日、旧十月大	朔	佛滅	ひらく	柳	十し	6.19	16.33	23.04
19日	日	かえ	五黄	一茶忌、一粒万倍日	二	大安	とづ	星	大みょう	6.20	16.32	23.35
20日	月	かのと	四緑	旧亥の子餅、炬開き、三隣亡	三	赤口	たつ	張	大みょう	6.21	16.32	24.06
21日	火	みづのえ	三碧	京都東本願寺報恩講(28日迄)、近松忌、八せん始め、不成就日	四	先勝	のぞく	翼	くま	6.22	16.31	24.37
22日	水	みづのと	二黒	小雪二時〇五分、豊川稲荷秋季大祭	五	友引	みつ	軫	くま	6.23	16.31	25.08
23日	木	きのえ	一白	勤労感謝の日、熊本八代妙見祭、笠間稲荷献穀献餅祭	六	先負	たいら	角	月とく	6.24	16.30	25.39
24日	金	きのと	九紫		七	佛滅	さだん	亢	神よし	6.25	16.30	26.10
25日	土	ひのえ	八白	神道修成派教祖教霊大祭、防府天満宮裸坊祭	八	大安	とる	氏	大みょう	6.26	16.29	26.81
26日	日	ひのと	七赤		九	赤口	やぶる	房	くま	6.27	16.29	27.52
27日	月	つちのえ	六白	上弦一時〇三分、高根出雲大社神迎祭、税関記念日、親鸞聖人忌、東京品川千休荒神大祭	十	先勝	あやぶ	心	神よし	6.28	16.29	28.63
28日	火	つちのと	五黄		十一	友引	なる	尾	大みょう	6.29	16.29	29.34
29日	水	かえ	四緑		十二	先負	おさん	箕	●	6.30	16.28	30.05
30日	木	かのと	三碧	三の酉、一粒万倍日	十三	佛滅	ひらく	斗	十し	6.31	16.28	30.76

に華美におごり、お祭り事になり、虚栄の観が強いのはどういふものか。

【祭】三日は「文化の日」、戦前は四大節の一つで「明治節」といふ、明治天皇の誕生日である。その遺徳をたたえ文明・文化の記念日として各地でいろいろな文化事業の催しが行われる。戦後、憲法の改正があつて呼称は変わった。

二十三日は「勤労感謝の日」で、勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝しあう日と制定されている。

この月の干支(えと)による酉の日は「お酉さん」とも「酉の市」ともいって、驚(おおとり)明神の祭祀が行われる。開運の神として盛であるが、三の酉までである年は、活気がありすぎて火事が多いといひ伝えられている。

この月の九日は「太陽暦採用記念日」である。これまでしばしば旧暦という言葉がでてきたが、いま現在われわれが使っている何月何日という暦は、明治五年の十一月九日に採用された太陽暦以来である。